

学校だより

埼玉大学教育学部附属特別支援学校
令和5年度 学校通信 No.14
令和6年3月11日



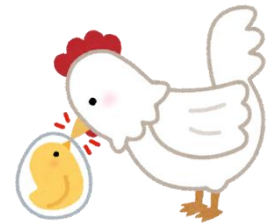
年度のしめくりに当たり

校長 石川 泰成

光の春の訪れに続き、行きつ戻りつしながらも、そよ吹く風にはぬくもりが感じられるようになりました。季節の歩みを実感する日が続きます。気がつけば、中学部・高等部棟の改修工事の囲いもはずされ、落ち着いた佇まいの校舎のお目見えとなりました。周辺整備の工事は継続されるものの、令和6年3月7日(木)より、新校舎での学校生活がスタートしました。今後、子供たちの生活や成長が刻み込まれた、温もりのある学び舎へとなることでしょう。

改修工事の間にも、子供たちの学びと成長は確実に進み、確かな手応えとともに進級、卒業の日を迎えます。令和6年3月11日(月)には高等部、同15日(金)には小学部及び中学部の卒業証書授与式を挙行いたします。まずは、卒業生の皆さん。ご卒業おめでとうございませう。いずれもそれぞれの学部最高学年として、下級生のモデル、尊敬すべき先輩の役割を果たしてくれました。特に、高等部3年生は学校全体のリーダーとして活躍してくれたことを、大変うれしく思っています。

卒業式と聞くと、以下の話を思い出します。雛(ひな)が卵からかえろうとすると、雛が内からつつくの「啐(そつ)」、母鳥が外からつつくの「啄(たく)」といい、「啐啄同時(そつたくどうじ)」は気持ちや呼吸がぴたりと合うことを意味するそうです。卒業生には、不安とか名残惜しい気持ちとかを振り払って、新しいステージで力を発揮したい、挑戦したい、そうした期待や願いを膨らませて欲しいものです。また、卒業生が先生方を「OK、もう大丈夫。附属の卒業生として申し分ない。」こんな想いにさせてくれたら最高です。「さあ、もう大丈夫、もう行きなさい。」「今までありがとうございました。旅立ちます。」。こうした、想いの一致した卒業式を期待しています。卒業式までのわずかな間の学校生活を充実させ、卒業式を立派にやり遂げるよう準備すること。これが、お互いの想いを確かにしていく、最後の最後の大事な「授業」だと考えています。



さて、今号において年度末のお礼を申し上げます。年度当初の学校経営方針に基づき、教職員が協働して学校教育目標の実現を目指し実践してまいりました。学校の教育活動を効果的、効率的に展開するためには、学校のみではなし得ないことを承知しております。保護者や地域の皆様方のご協力があったことです。PTA会長をはじめ役員の皆様、保護者の皆さんによる登下校指導、しいのき親の会、しいのき林を守る会、校医様や薬剤師様、学校評議員の皆様…。関係いただいた、皆様方のおかげで年度末を迎えることができました。改めて、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。皆様からいただいた学校評価やご意見、ご指摘等を検討し、来年度一層の充実に努めて参りたいと存じます。今後も引き続きご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

お知らせ

【一斉メールシステムの移行について】

不具合の生じております現在の一斉メールシステムについて、新年度よりアプリと連動したサービスへ移行いたします。詳細は新年度にお伝えしますのでご協力よろしくお願い申し上げます。

【4月からの登下校・事業所サービス利用について】

4月より正面玄関からの登下校に戻ります。また、下校時の事業所サービスの車両乗り入れも再開いたします。届出の提出は年度毎としておりますので、ご協力よろしくお願い申し上げます。